

専門的アーカイブの拡充（資料閲覧室運営）（③情03-07-2/5）

目 的

企画情報部では(1)受入した文化財関連の図書などの文字資料や、作成したアナログ・デジタル画像資料の登録・管理、(2)閲覧室で月・水・金の週3回一般利用者へ所蔵資料を提供、(3)データベースや検索システムの構築・運用を通常業務としている。過去五カ年で定まった文化財関連資料の公開機関としての周知をふまえ、次期五カ年では提供する資料や情報の質に主眼を置き、より専門性の高い文化財関連資料や情報の収集・構築・公開の場として専門的アーカイブの拡充を図る。また、上記アーカイブのための資料収集及び作成には画像形成技術の開発が必要不可欠である。画像形成部門では、常に技術の進歩をみる写真機材及び設備の整備が必須であり、本プロジェクトでは継続的なこれらの更新を行うことによって、世界最先端の研究活動を支援することをも目的とする。

成 果

- (1) 資料閲覧室運営：従来どおり文化財に関する文字資料及び画像資料の収集、管理、公開、データベースの構築・運用を基本に、より充実した文化財に関するアーカイブの形成を試みた。アーカイブ拡充の一環として美術史家川上涇氏、久野健氏、田中一松氏の調査等の資料の寄贈を受け入れた。またデジタルコンテンツ作りでは、『美術研究』総目次のデータ化と、文化財年表作成の資料として『日本美術年鑑』（朝日新聞社）のデータ化を開始した。一方、利用頻度が高まるにつれ、劣化が進む資料類や機器類の保護対策として、資料については引き続きデジタル化をすすめ、また順次機器の更新を行った。また、国内外の関連機関との協力関係構築への取り組みとして他機関の資料収集・整理・公開システムを調査し、さらに有効なシステム構築のための協議を行った。

図書受入数：和漢書914件、洋書0件、展覧会図録・報告書等864件、雑誌1,488件

受入総数：3,266件

目録所在情報：目録所在情報の種類 35種、目録所在情報作成件数 32,484件

目録所在情報収録件数 648,759件、目録所在情報公開件数 528,039件

イントラネットで公開中の目録累計数 13種

資料閲覧室の利用状況：公開日総数 140日、利用者年間合計 1,120人 194人増（前年度との対比）

- (2) 画像情報室：従来に引き続き、他部・センターあるいは他機関との共同調査研究により文化財の画像資料の収集・作成を行った。また、黒田清輝遺族から寄贈された資料写真のうち、第一次寄贈写真についてはデジタル化を完了し、風合いを再現した出力を試みてその成果を黒田記念館での特集展示「写された黒田清輝」で公開した。画像資料の作成・整理については、写真管理検索システムへの4×5カラーフィルムの登録、戦前の撮影調査票一覧のデータ化、写真原板検索システムの外部公開を開始した。昨年度より継続の尾高鮮之助、和田新撮影フィルムについては文化遺産国際協力センターの協力を得て、画像のデジタル化に着手した。また、デジタルアーカイブで公開中の『紅白梅図屏風』の画像を冊子体で提供することを開始した。

撮影件数：フルカラー画像3,560件、特殊画像1,450件

平成19年度写真管理検索システム登録件数：5,950件（カラー4×5）

企画情報部にて作成・更新中の目録データベース（35種）

- ・所蔵和漢書データベース（2006年度まで）
- ・所蔵洋書データベース
- ・売立目録データベース
- ・和雑誌誌名データベース
- ・受入和漢書データベース（2007年度分）
- ・所蔵簡易図書データベース
- ・所蔵美術館博物館収蔵目録データベース
- ・所蔵洋雑誌誌名データベース

③資料作成・公開 Area13

- ・所蔵中国雑誌誌名データベース
- ・所蔵和雑誌巻号データベース（2002年まで）
- ・所蔵和雑誌巻号データベース（2003年以降）
- ・所蔵中国雑誌巻号データベース
- ・所蔵地方公共団体刊行報告書データベース
- ・展覧会データベース（2002年まで）
- ・近現代作家名データベース
- ・写真原板データベース
- ・古美術文献目録データベース（明治～1965年）
- ・近現代美術文献目録データベース（1959～1990年）
- ・所蔵古美術展図録目次データベース（1989～2001年）
- ・所蔵近現代図録目次データベース（1948～1990年）
- ・古美術展覧会開催情報データベース（1944年以降）
- ・美術懇話会・開所記念展覧会出品目録データベース
- ・所蔵韓国雑誌誌名データベース
- ・所蔵洋雑誌巻号データベース（2005年まで）
- ・所蔵洋雑誌巻号データベース（2006年以降）
- ・所蔵韓国雑誌巻号データベース
- ・所蔵香取秀真資料関係データベース
- ・展覧会データベース（2003年以降）
- ・近現代展覧会開催情報データベース（1944年以降）
- ・キャビネット写真データベース
- ・東京文化財研究所年表データベース
- ・美術館博物館名データベース
- ・美術研究総目次データベース
- ・撮影調査票データベース
- ・物故記事データベース

研究資料検索システムにて提供中のデータベース I→イントラネット O→インターネット

- ・I/O美術関係図書データ
- ・I/O伝統芸能関係図書データ
- ・I/O保存修復関係図書データ
- ・I/O売立目録データ
- ・I/O展覧会カタログデータ
- ・I/O和雑誌データ
- ・I/O写真原板データ(2007.6外部公開開始)
- ・I古美術文献データ
- ・I近現代美術文献データ
- ・I/O『保存科学』所載文献データ(2007.5外部公開開始)
- ・I/O伝統芸能関係三雑誌所載文献データ
- ・I/O近現代美術展覧会開催情報データ
- ・I/O伝統楽器情報データ

研究組織

○中野照男、山梨絵美子、勝木言一郎、皿井舞、江村知子、城野誠治、中村節子、中村明子、井上さやか、鳥光美佳子（以上、企画情報部）

無形文化財に関わる音声・画像・映像資料のデジタル化（③無03-07-2/5）

目 的

無形文化遺産部では、旧芸能部時代から、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため無形文化遺産部では、画像・音声・映像資料の媒体転換を進めてきたが、将来的には、デジタル化された各種資料の集積によって、デジタル・アーカイブの開設を目指している。

概 要

本年度は、これまでに蓄積されてきた資料に加え、平成17年度までに寄贈を受けたアナログテープの媒体転換を中心に実施した。とくに、新たに受入れが完了した資料に関しては、これまでの資料を補完する分野を重点的にデジタル化を進めた。同時に、デジタル化音声資料へのインデックス付与も行った。

研究組織

○宮田繁幸、鎌倉恵子、高桑いづみ、飯島満、俵木悟、佐竹悦子、角美弥子、綿貫潤（以上、無形文化遺産部）